

発 言 通 告 書

発言者氏名	嘉山 淳平
発言の会議	平成26年11月27日 本会議
発言の種類	質 疑、 <u>一般質問</u> 、緊急質問、討 論、その他
質疑等の方式	一 括、 <u>一問一答</u>
答弁を求める者	市 長

【件名及び発言の要旨】

1 横須賀市の産業改革（ヨコスカバレー構想）について

- (1) 国の動向として、今月21日に、国会における審議の中で「まち・ひと・しごと創生法案」が可決しました。これまで東京などの首都圏に人口や産業が集積してきたものを、地方が主体として産業振興を進めることにより、地方における地域活性化につなげていく内容です。国が進める地方創生の動向を踏まえ、市長は、ヨコスカバレー構想における地域経済活性化について、どのような政策を考えておりますでしょうか。
- (2) 全国の市場ではフェイスブックやLINEなどのいわゆるベンチャー（最近ではスタートアップと呼ばれる）企業が台頭してきました。そのような急成長を遂げるスタートアップ企業の台頭と、今後の可能性について、市長はどのように考えておりますでしょうか。
- (3) 今年6月、市長はヨコスカバレー構想と銘打ち、10年で100社100億円の売り上げを立てるというビジョンを掲げられました。市が全て主導して誘致していくのではなく、あくまでも市はスタートアップ企業に対し、バックアップ体制を充実させることが必要不可欠であると考えます。そこで、本市としても財政負担

にならず、かつインパクトのある施策を行う必要があると思います。市長は呼び込むための施策をどのようにお考えでしょうか。

- (4) 本市としても、市内で起業してもらう、また市外から本社を移転してもらうためには、インパクトのある税制改革を行う必要があります。具体的には、法人税と法人住民税を切り分けて考えた際、横須賀市内で創業、あるいは本社機能を移転してくれた企業には、1年間に限り法人住民税を無料にするなどといった具体策が考えられます。このように、創業支援金や小規模事業者進出補助金などで補助する予算を、法人住民税等を無料化する施策による減収分へ充当することを検討していくべきであると考えますが、市長はどのように考えますでしょうか。
- (5) 今後市内から起業する人材をふやしていくためにも、起業家教育や情報共有、ネットワーク作りなどの環境整備をしていく必要があると考えますが、市長はどのようにお考えでしょうか。
- (6) 起業家教育や情報共有、ネットワーク作りなどに関しては、既存の産業交流プラザに加え、産業振興財団においても期待したいところです。市長は産業交流プラザ、産業振興財団のあり方についてどのように考えておりますでしょうか。
- (7) 創業支援オフィスの利用実態として、6区画あるうちの2区画しか利用されておらず、ほとんどがあいている状況です。せっかくの立地にも関わらず窓が無く暗くて狭い部屋となっており、これでは起業家が生まれ育つ環境とはほど遠いと感じざるを得ませんでした。市長はヨコスカバレー構想を掲げ10年で100社100億を目指していく上で、現在の創業支援オフィスの今後の方針についてどのようにお考えでしょうか。

2 地産地消の取り組みによる農業・漁業の産業振興について

- (1) 今年、第2次とされる地産地消アクションプランを策定し、引き続き地産地消を促進していくことに注力していく印象を受けました。しかし、その地産地消の施策を行うことにより、関連産業である農業・漁業の振興につながっているか見きわめる必要があるかと思います。本市の地産地消の取り組みを促進するだけで

なく、農業・漁業関連業者の所得をふやすことを念頭にした施策の展開が必要と考えますが、市長はどのようにお考えでしょうか。

- (2) 消費者として地元で生産・水揚げされた食材を購入することができる、長井のすかなごっそと新港のよこすかポートマーケットが2大大型直売所として存在します。特に集客と売上に関して課題を抱えていたよこすかポートマーケットは、これまでの委員会の中で議論されてきました。その後、よこすかポートマーケットの集客ならびに売上についてどのように改善されていますでしょうか。また、それに対する市長の見解についてお聞かせください。
- (3) よこすかポートマーケットは「旬産旬消」をコンセプトに地産地消を推進している施設であり、消費者も横須賀ひいては三浦半島で生産された産物を期待して足を運びます。近隣にスーパーが立ち並ぶ中で、よこすかポートマーケットは地元の新鮮かつ旬の食材を取り扱っているというブランディングを明確に打ち出していく必要があるのではないのでしょうか。市長が考えるよこすかポートマーケットの立ち位置と、今後の方向性についてお聞かせください。
- (4) 今後、直売所で直接購入するだけでなく、市外からも市内産物を購入してもらうことも検討していくべきと考えています。どの店舗も必ずといっていいほど店頭販売に加え、インターネットで購入することができるシステムを構築しています。足を運ばなくても、リピーターとして購入することが可能となります。本市の生鮮・加工品、土産等を、ICTを活用しインターネット上での販売も検討していくべきと考えますが、市長はどのように考えますでしょうか。
- (5) 耕作放棄地は、行く行くは建設土砂の違法埋め立ての話や、粗大ゴミの不法投棄などをされることが後を絶ちません。耕作放棄地から、自然環境が破壊され、私たちの生活へ悪影響を与えかねない事態が起きています。そこで、早急に対策を取り、農業振興に結びつけていくことが急務であることは皆認識を同じくしていることと思います。市長は、市内の耕作放棄地の現状について、どのように認識されているのでしょうか。

- (6) 今後、耕作放棄地を解消していくため、様々な策を講じていく必要があります。農業委員会とも連携しながら、耕作放棄地マップを作成し、農地を借りたい農家を紹介という形でマッチングしている事例や、耕作放棄地を市民農園に変え、収益を上げている事例もあります。このように、本市においても耕作放棄地の解消に向けた取り組みを実施すべきと思いますが、市長はどのように考えますでしょうか。